

甲南大学法科大学院入学試験問題について

2018年度秋入学・2019年春入学
一般入学試験（A日程・8月18日分）

試験科目：民法

1. 出題趣旨

強迫を理由とした取消しの事例をもとに、設問1と2では、取消しの効果（遡及効）を具体的事例に即して正しく説明できるか、設問3では、取消し後の第三者の保護に関する判例法理を、取消しの遡及効との関係に配慮しながら、実質面・理論面の双方から正確に説明できるかを問うた。

2. 採点実感

いわゆる「取消しと登記」の論点は有名な論点であることから、理論的な正確性を重視した採点をしたが、概ね良好な解答が多く、基本的な理解が十分であることが示されていた。

3. 学習方法

条文の内容は理論的な正確性をもって説明できるようになる必要があるし、かつ具体例を挙げながら説明できるレベルにする必要がある。

また、判例法理については、条文に表れている基本的ルールとの理論的整合性に注意し、結論だけでなく理由付けとともに正しく理解する必要がある。

そのためには、ふだんから手間を厭わず条文と教科書を丁寧に読み込む必要がある。